



## 警告のニューズレター「角笛」

発行日：2017年11月発行（第91号）

発行：警告の角笛出版

価格：フリーペーパー

角笛 HP: <http://www.geocities.co.jp/Technopolis-Mars/5614/>

### 〔目次〕

- ◎巻頭メッセージ：「ベテルを求めるなギルガルに行くな」 エレミヤ
- ◎時代を悟る 「イエスを軽んじる世代」 H.F
- ◎お知らせコーナー 「本の紹介」

### [巻頭メッセージ]

#### 「ベテルを求めるなギルガルに行くな」 by エレミヤ

本日は「ベテルを求めるなギルガルに行くな」という題でメッセージしたいと思います。教会はいずれ無になる、捕らえ移される、と聖書が語っていることを見ていきたいと思えます。テキストはアモス書5:4-6の箇所です。この箇所をみていきましょう。

アモス5:5 ベテルを求めるな。ギルガルに行くな。ベエル・シェバにおもむくな。ギルガルは必ず捕え移され、ベテルは無に帰するからだ。」

この箇所では「ベテルを求めるな。ギルガルに行くな。」と語っています。このことの意味合いを考えてみましょう。ベテルとはどのような場所なのでしょう？以下の記述から理解できます。

創世記28:16 ヤコブは眠りからさめて、「まことに主がこの所におられるのに、私はそれを知らなかった。」と言った。

28:17 彼は恐れおののいて、また言った。「この場所は、なんとおそれおおいことだろう。こここそ神の家にほかならない。ここは天の門だ。」

28:18 翌朝早く、ヤコブは自分が枕にした石を取り、それを石の柱として立て、その上に油をそそいだ。

28:19 そして、その場所の名をベテルと呼んだ。しかし、その町の名は、以前はルズであった。

この箇所からわかることはこのことです。

ベテルとはイスラエル民族の祖であるヤコブが生ける神に会ったところなのです。そこは神の家であり天の門なのです。我々プロテスタントでいうなら、それはたとえば、カソリックから独立し、宗教改革を行ったルターのように大きな宗教経験、大きな転機なのです。ギルガルとはどのような場所でしょうか？以下にその記載があります。

ヨシュア5:7 主は彼らに代わって、その息子たちを起こされた。ヨシュアは、彼らが無割礼の者で、途中で割礼を受けていなかったため、彼らに割礼を施した。

## 「ベテルを求めるなギルガルに行くな」 by エレミヤ

5:8 民のすべてが割礼を完了したとき、彼らは傷が直るまで、宿営の自分たちのところにとどまった。

5:9 すると、主はヨシュアに仰せられた。「きょう、わたしはエジプトのそしりを、あなたがたから取り除いた。」それで、その所の名は、ギルガルと呼ばれた。今日もそうである。

ここでは、出エジプトした民に対して、このギルガルにおいて主が「エジプトのそしりを、あなたがたから取り除いた。」ことが書かれています。エジプトはこの世のたとえでしょうか。そういう意味では、ギルガルとはクリスチャンがこの世から全く切り離された、記念すべき場所、そういえるかもしれません。

しかし、このように教会の歴史、クリスチャンの歴史の中で、大きな意義のある場所であるベテル、ギルガルに関して主は「ベテルを求めるな。ギルガルに行くな。」と述べておられるのです。何故なのでしょう？以下の様に理由が語られています。

5:5 ベテルを求めるな。ギルガルに行くな。ベエル・シェバにおもむくな。ギルガルは必ず捕え移され、ベテルは無に帰するからだ。」

ここにはこのように信仰の一大改革が起きた記念すべき場所であるベテルに関して、それは「無に帰する」ことが語られています。またギルガルは「捕らえ移される」ことが語られているのです。

どのような大きな宗教変革が起きた場所であり、すばらしい信仰復興が起きた場所であっても、その教会、教団もいずれはあるべき場所から移される、神の前に無の存在になる、そのことが語られているのです。残念ながら、教会は永遠に同じ姿ではとどまらない、いずれは変質してしまい、あるべき純粋な姿から変ってしまう、ということが聖書の主張なの

です。

＜教会は必ず変遷し、捕らえ移され、無に帰する＞

さて、ここで語られているベテルとは、時代を考えるなら、ヤコブの時代の場所であり、ギルガルもヨシュアの時代の場所です。しかし、聖書は世の終わりに臨む我々への警告として書かれたものです。今の時代の我々に対してもこのベテルやギルガルの記述は意味のあるものなのです。否、今の時代の我々に対する警告としてこれらの記述は書かれたと理解すべきです。

旧約においては、ベテルは無に帰する、ギルガルも捕らえ移されることが神の前に真実でした。同じ意味あいでも新約においてもどれほど、大きな、信仰的な教会も、教団もいずれは無に帰する、また捕らえ移される、それが聖書の語っている真理だと思われるのです。

＜新約においてもベテルは無に帰し、ギルガルも捕らえ移される＞

新約においてもかつては純粋で、忠実であった教会もいずれは、無に帰し、また捕らえ移される、ということが真実なのです。たとえば、今年宗教改革500年祭がある、ということです。ルターの宗教改革から、500年のときが経ちました。ルターはどのような人か、というと宗教改革を行いカソリックからプロテスタントを分離させた信仰の偉人です。彼の信仰は純粋であり、その行いも純粋なものです。彼の信仰を継承する教団はルター派と呼ばれます。しかし、500年もの年を経てルター派は、すっかり、その教理を変えてしまいました。今、ルター派は、カソリックとの一致、エキュメニカルを率先して先導する変節教団、背信教団になってしまったのです。

## 「ベテルを求めるなギルガルに行くな」 by エレミヤ

まさに新約の時代においても、ベテルは無に帰し、ギルガルは捕らえ移されるということが真実なのです。

この変質してしまう、ということはルター派だけの問題ではありません。アメリカにおいては、多くの教団が同性愛を受入れ、同性愛を禁止する聖書の教えに背を向けています。これらの教団においても、「ベテルは無に帰する、ギルガルも捕らえ移される」ことが真実なのです。そして、それは教団に限らず人間の器に関してもそうなのです。たとえば、福音派で有名なビリーグラハムがそうです。彼は今は「カソリックには何の問題もない」などと背教的なことを語っています。しかしカソリックはマリヤが無原罪であるとか、昇天したとか、さらには「父、御子、御霊にマリヤを加えて聖4位一体」などと冒瀆的な教理を語っています。このカソリックに問題がないはずはありません。そのように見えるビリーグラハムがすでにベテルの様に無に帰した人、ギルガルのように、捕らえ移された人とするのが正しいのです。

### <天地は衣のように変えられる>

このこと、教会が時とともに変質、変遷することを聖書はいくつかの表現を変えて語ります。その表現は、たとえであり、御国の奥義なのですが、しかし、主の知恵をもって悟るべきです。たとえば、聖書は教会の変質を以下の様な表現で語ります。

詩篇102:25 あなたははるか以前に地の基を据えられました。天も、あなたの御手のわざです。

102:26 これらのものは滅びるでしょう。しかし、あなたはながらえられます。すべてのものは衣のようにすり切れます。あなたが着物のように取り替えられると、それらは変わってしまいます。

102:27 しかし、あなたは変わることがなく、あなたの年は尽きることがありません。

ここで書かれている天地とは教会のたとえです。主は信仰の先祖であるアブラハムの子孫に関して、天の星、地の砂の様になると語りました。ですので、アブラハムの信仰の子孫であるクリスチャンは星、砂にたとえられるのです。そして、天地はその星、砂を収容する場所として教会のたとえです。この天地、教会に関して、「これらのものは滅びるでしょう」として結局は滅びていく、変質していくことが語られています。「すべてのものは衣のようにすり切れます。」というように、教会、神の民の集まりは長い時間の経過とともにすりきれ、キリストを覆う衣の役割を果たすにはふさわしくなくなってしまふ、ということが残念ながら、真実なのです。

「あなたが着物のように取り替えられると、それらは変わってしまいます。」

ここでは、着物である教会が取り替えられ、変ってしまうことが語られています。主の初降臨の時を考えてみましょう。その時キリストのからだをおおうはずだった旧約の着物、すなわち、旧約時代のユダヤ教の集会、教会は彼にとり、ふさわしくないものでした。それどころかユダヤ教の集会はキリストを受入れず、逆に彼を異端視し、迫害したのでした。



ルター500年祭

## 「ベテルを求めるなギルガルに行くな」 by エレミヤ

そしてそれであるがゆえにその着物、集会はもう神により用いられなくなり、新約の教会へと変えられてしまいました。それが、「あなたが着物のように取り替えられると、それらは変わってしまいます。」とのことばの意味合いです。私たちがそのような教理を好むと好まぬは別として、着物である教会は、時代とともにすりきれ、用をなさなくなるのです。ついには古くなった着物は新しい着物、新しい教会へと変えられてしまう、ということばは聖書が一貫して語る真理なのです。

### <天地は過ぎ去る>

さて、教会が変質してしまう、それは旧約の集会だけでなく、新約の教会に関しても当てはまることなのです。事実終わりの日に、新約の教会が時とともに変質し、背教へと変質してしまう、ということは他の表現を通して語られています。たとえば、以下です。

**マタイ 24:35** この天地は滅び去ります（過ぎ去る）。しかし、わたしのことばは決して滅びることがありません。

ここでは、キリストのことば、と天地が対照的に語られています。そして、天地は上述の様に教会のたとえなのです。そして、このことばは予言であり、天地すなわち、教会がいずれ、過ぎ去ってしまう、ということ、そしてその過ぎ去る、こととキリストのことばとが関係することが語られています。すなわち、教会がいずれ、キリストのことばを信頼に値しないものとして駆逐し、過ぎ去らせようとする、また神のことばに対して背信する時が来るということです。そして、その背信の結果として逆に教会のほうに過ぎ去ってしまう、消滅してしまう、ことが預言されているのです。教会が神のことばを過ぎ去らせ、亡きものにしようとする、その結果、逆に教会が消滅する？そんなとんでもない、という意見があるかもしれませんが、しかし、このことは他の表現でも語られています。以下のことばを見てください。

**黙示録 6：14** 天は、巻き物が巻かれるように消えてなくなり、すべての山や島がその場所から移された。

ここでは、天すなわち、天的な教会が消えてなくなることがたとえで書かれています。その理由を暗示して巻物のことが書かれています。巻物(biblion)とはすなわち、聖書のことです。すなわち、天的な教会であっても聖書のことば、キリストのことばを否定する時、その教会が過ぎ去ってしまい、消滅することがここでは暗示され、語られているのです。

「すべての山や島」も教会をさす表現です。その日、「すべての山や島がその場所から移され」ることが預言され、語られています。すなわち、教会が本来あるべき地位、場所から移され、俗化され、罪へ陥ることがたとえで語られているのです。

このことは今、現実に実現しつつあります。たとえば、教会においては、本来、同性愛は忌むべき罪として避けられていたものです。この罪に関して厳しい警告がいくつも聖書には語られています。それなのに、アメリカを始めとした教会においては、同性愛を公然と認め、同性結婚を司式する牧師まで存在します。このように教会は急速に変質しています。確かに「すべての山や島がその場所から移され」る日が来つつあり、すべての教会があるべき場所から移される日が到来しつつあるのです。

### <背教>

教会が終末の日に変質する、古びた着物の様になる、移されると聞くと反発する人もいるかもしれませんが、しかし、テサロニケの手紙には終末の日教会に背教が起きることが明確に描かれています。以下の通りです。

**2テサロニケ 2:3** だれにも、どのようにも、だまされないようにしなさい。なぜなら、ま



## 「ベテルを求めるなギルガルに行くな」 by エレミヤ

ず背教が起こり、不法の人、すなわち滅びの子が現われなければ、主の日は来ないからです。

ここには明確に背教ということばが使われており、間違えようがありません。ですので、終末の日に教会が変質してしまい、最後には背教に陥ってしまうとは、残念ながら、聖書が繰り返し繰り返し警告していることなのです。

### <背教の教会への裁き、神の怒り>

このように背教した教会に対して、世の終わりには神の怒りが下される、それが終末の預言の中心的な警告です。

ルカ21:20 しかし、エルサレムが軍隊に囲まれるのを見たら、そのときには、その滅亡が近づいたことを悟りなさい。

21:21 そのとき、ユダヤにいる人々は山へ逃げなさい。都の中にいる人々は、そこから立ちのきなさい。いなかにいる者たちは、都にはいってはいけません。

21:22 これは、書かれているすべてのことが成就する報復の日だからです。

21:23 その日、悲惨なのは身重の女と乳飲み子を持つ女です。この地に大きな苦難が臨み、この民に御怒りが臨むからです。

この預言は2重の預言です。すなわち、主の初降臨の日に最初の成就があり、さらに終末の日に2度目の成就があるのです。主の初降臨のあと、これらの預言はみな成就しました。すなわち、エルサレムは西暦70年にローマの軍隊に囲まれ、滅亡したのです。そして、エルサレムが滅亡したその理由は、神の怒りのゆえです。神のただ一人の御子であるキリストを捕らえ、死刑判決を行い、十字架で命を奪った旧約の神の民に対して、すさまじい、神の怒りがこの日に炸裂したのです。「これは、書かれているすべてのこと

が成就する報復の日だからです。」と書かれているように、その日は神の報復の日だったのです。さて、これは、主の初降臨の日のことですが、しかし、終末に起きることの型です。再臨の日にも同じパターンで神の怒りが臨むのです。すなわち、終末の日にもキリストの十字架は再現し、新約の神の民の背教も再現します。以下の黙示録のことばがその背教と十字架の日を預言しています。

黙示録11:8 彼らの死体は、霊的な理解ではソドムやエジプトと呼ばれる大きな都の大通りにさらされる。彼らの主もその都で十字架につけられたのである。

ここには、終末の日にソドム化、エジプト化した背教の教会において、主の十字架が再現することが預言されています。ソドムとは、同性愛で有名な町であり、今積極的に同性愛や同性婚を認めている教会こそ、神の前にソドムと呼ばれる都なのです。これらの背教の教会に対して、その日すさまじい神の怒りが臨むようになるでしょう。その日、私たちはどうすればよいのでしょうか？以下のことばがその日へのヒントです。

そのとき、ユダヤにいる人々は山へ逃げなさい。都の中にいる人々は、そこから立ちのきなさい。いなかにいる者たちは、都にはいってはいけません。

ソドム化し、エジプト化した都、すなわち、背教の教会から出ること、その罪に巻き込まれないことが大事なのです。あの日、ソドムから山へ逃げて命を永らえたロトが私たちの模範であり、指標です。 —以上—



ソドムの町から山へ逃げるロトたち

ヨハネ14：6「わたしが道であり真理でありいのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。」

主イエスをご自分を真理でありいのちであるといわれ、御自分を通してのみ、救いがあると言われていました。イエスのほかに救いはありません。救われるために、全人類にはイエスが必要であり、イエスの宣教命令のもとに多くの主の働き人達が福音を世界中に宣べ伝えてきました。クリスチャンにとって、主イエスは、最も重要であり、真理であることは当然でしょう。では、今の時代はどうでしょうか。

英国において、キリスト教徒以外の感情を害するのを避けるために、宗教教育の教訓からBCとADという歴史的用語を削除する学校が増えています。伝統的な用語であるBC, Before ChristおよびAD, Anno Domini(これは「主の年」を意味する)はBCE-Before Common Era およびCE-Common Eraに変えられています。(2017年10月4日 CHRISTIAN NEWSより。)

イギリスはキリスト教国と言われ、多くの教会があります。しかしそのイギリスの学校教育の場で、BCとADという用語が捨てられ変えられています。他宗教の感情を害さないためという言う文言で、キリストと言う名前をついた用語を排除し始めているのです。同じくキリスト教国のアメリカにおいてははどうでしょう。

あと数か月もするとクリスマスシーズンに入りますが、アメリカではかつてはお店

などに『Merry Christmas』と書かれたデコレーションが沢山飾られていました。しかし今では『Merry Christmas』の文字も余り見かけずまた、店の店員からは『Merry Christmas』ではなく『Happy Holidays』と声をかけられることが多い状況であるといえます。グリーティングカード、クリスマスカードを送りあう習慣が、現在は次第に、メリークリスマス「Merry Christmas」という言葉ではなくSeason's GreetingsやハッピーホリデーズHappy Holidaysと言う言葉に置き換えられ始めています。

アメリカではpolitical correctness (ポリティカル コレクトネス: 言葉の表現や用語に人種・民族・宗教・性差別などの偏見が含まれていない) と言う概念が広がっています。それによると『Merry Christmas』という言葉を使うことによって、特定の宗教またはその宗教にまつわる行事・習慣を押しつけることとみなされる恐れがあり、また、人の精神(宗教)の自由を危ぶむものと捉えられかねないというのです。今はその考え方が主流となりつつあります。このように今のアメリカにおいては、ほかの宗教の人々の配慮と言う名のもとに、次第にイエスの名が消されていつているのです。

このようにキリスト教国と言われていたイギリスやアメリカにおいて、人権的な考え方と言う名のもとに、キリストの存在を故意に無くしていく流れがあります。

またカトリックにおいては、2017年ロー

マカトリック教会ではファティマの聖母出現100周年を祝っています。これは今から100年前、ポルトガルのファティマで聖母が出現したとされ、後年にカトリック教会・ローマ教皇庁はこの一連の現象を聖母の出現と公認し、5月13日はファティマの聖母の出現記念日としています。2017年5月13日、フランシスコ教皇がファティマに聖母出現100周年を祝って巡礼し、同日、日本でもファティマを記念のミサが行われています。

このようにイエスではなく、母マリヤに焦点を当てているのがカトリックの信仰です。イエスに祈りをささげる以上に、マリヤに対しての祈りに重点を置いています。カトリックは、イエスを軽んじ、マリヤについて聖書にはない解釈をしているのです。

またローマ法王フランシスは2015年NYマンハッタンの聖パトリック聖堂において他の宗教との融合、エキュメニカルな「クリスラム」についてのべ、イエスの名によってではなくイスラムの神の呼び名「慈悲深い全能の神」と祈った事は良く知られています。これらのわずかな例でも、カトリックにおいては、主イエスを重んじていないことは明らかでしょう。

このようなカトリックと500年前に袂を分けたのがプロテスタントです。カトリックとプロテスタントの信仰とは相いれないものだったはずですが、現在はどうでしょう。

今年マルチンルターの宗教改革500年記念の年であり、世界で多くの行事が行われています。ここで、エキュメニカル的な行事が多々行われました。袂を分かったはずのカトリックと合同の行事がおこなわれ、

それは日本においても同様でした。キリスト教の指導者たちは、これからは「イエス・キリストのみ」という表現ではなく共生を、対立ではなく対話と互いの理解を、というエキュメニカル的な趣旨をのべています。

現在、主イエスと真理を求めていくのではなく、宗教間のお互いの違いを認め合い、対立ではなく協調と言うような人間的な見解の元に、エキュメニカルな流れがキリスト教会の中で大きくなっています。イエスのみが救いであり真理であるということは、争いのもとになるとして、あえて触れなくなっているのです。むしろ真理を求めイエスを強調することは、平和を乱す極端な者のようにされ始めています。まさにイエスを軽んじ始めた世代と言えないでしょうか。

イエスは、「わたしの名のために、あなたがたはすべての人々に憎まれます。しかし、最後まで耐え忍ぶものは救われます。」(マタイ10:22)と言われました。

主が言われたように、最終的には唯一の真理であるイエスの名を強調する者は、憎まれる時代がきます。その時が足を忍ばせ近づきつつあることを悟らねばなりません。

—以上—



キリスト教とイスラム教の融合：クリスラム

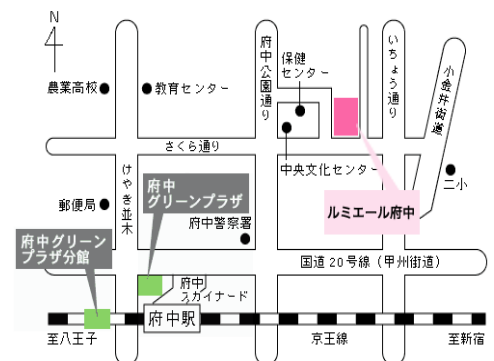
●エレミヤの新刊「天皇家は万世一系のダビデ王朝の末裔である！」



定価:¥1,500+消費税 ※注文を御希望の方は、以下へご連絡下さい。  
 警告の角笛出版 tel:042-364-2327 fax:020-4623-5255  
 mail:truth216@nifty.com

●レムナントキリスト教会「日曜礼拝」のご案内

曜日/時間:毎週日曜日 午前 10:30-12:30  
 午後 14:00-16:00  
 場所:東京都京王線府中駅前、府中グリーンプラザ本館  
 (tel:042-360-3311)  
 1Fのエレベーター脇の部屋表示板で、  
 「レムナントキリスト教会」の部屋をご確認ください。  
 どなたでも来会歓迎、入場無料です。



礼拝場所のURL: [http://www.fuchu-cpf.or.jp/green/access/map\\_02.html](http://www.fuchu-cpf.or.jp/green/access/map_02.html)

★教会のHPもあります。  
 ご興味のある方は、“Yahoo! Japan”で、「府中 レムナントキリスト教会」で検索ください。  
 尚、レムナントキリスト教会はプロテスタントの教会です。ものみの塔や統一教会とは関係ありません。

- ☆クリスチャンの方におすすめのサイト:エレミヤの部屋  
<http://www.geocities.co.jp/Technopolis/6810/>
- ☆クリスチャン向けへのブログサイト:終末の風  
<http://whattopics.at.webry.info/>
- ☆クリスチャンになったばかりの方やノンクリスチャンの方におすすめのサイト:オリーブ&ミルトス  
<http://remnantnotudoi.jimdo.com/>
- ☆ノンクリスチャン向けへのブログサイト:パンの家  
<http://87494333.at.webry.info/>